

ベル投資環境レポート

中国の瀋陽、長春を歩いて

2010年6月25日

鈴木 行生

中国の東北地域の発展ぶりを肌で感じるべく、瀋陽と長春を出来る限り歩いてみた。南よりも一歩遅れてはいるが、大発展が始まっている。変わらぬ建設ラッシュが至る所でみられる。交通インフラが整ってくることで発展が地方にどんどん波及していく、ということが実感できた。(6月21日～24日、21日は夏至で、元のドルペック見直しがスタートした日であった。)

1. シェンヤンは昔の奉天

- ・瀋陽(シェンヤン)までは成田から飛行機で3時間半。瀋陽桃仙国際空港から市内までは30km、道は空いているが市内に入ると結構混んでくる。タクシーに乗って50分くらいでホテルに着く。タクシー代は78元(1100円)であった。これは安い。
- ・泊まったホテルはインターコンチネンタル瀋陽、一泊9800円。上海の半分のイメージである。ホテルは瀋陽駅から10分くらいのところにあって、繁華街にある。シェンヤンの銀座通りを2時間くらい歩いてみる。上海と同じようにデパートがいくつもあり、それがコアになって、専門店が軒を並べている。伊勢丹も、ユニクロも、吉野家もあった。H&Mも入っている。
- ・スターバックスでカフェラテのスマールを飲んだら23元(320円)、暑いのでユニクロの帽子を買ったら149元(2000円)、店の目玉商品は99元(1300円)でアピールしていたから、上海同様、ユニクロは安くない。すでにブランドで売っているのである。吉野家のメニューは中国風にアレンジしてあり、牛丼(小ボウル)は13.5元(180円)であった。
- ・月曜日(21日)の午後なのにやはり若者が多い。そもそも国が若いうえ、月曜日が休みのものもいるのであろう。
- ・瀋陽は明を滅ぼした満州族のヌルハチが最初に首都を置いたところで、その後北京に遷都した後も副都として重視され、1657年に奉天府と改称された。以来折にふれ奉天ともいわれてきた。

2. 地下鉄はまだなく、2本が建設中

- ・中国の東北3省は、遼寧省（人口4200万人、面積15万km²、首都瀋陽市、1人当たりGDP4500ドル）、吉林省（2700万人、19万km²、長春市、3400ドル）、黒龍江省（3800万人、46万km²、ハルビン市、3100ドル）からなり、合計すると人口は日本の8割強、面積は1.7倍となる。因みに、上海の1人当たりGDPは10500ドル、北京9100ドル、天津8000ドル、広東5400ドルである。
- ・瀋陽の人口は800万人近い。町は新旧入り乱れているが、すでにビルが林立しており、古い町並みがどんどん消えていく感じ。いたるところ工事中で、新しいビルが建とうとしている。
- ・人々のファッションは今日の日本の普段着かかわりなく、人々の顔付きも上海よりは、はるかに日本人に似ている。

3. シェンヤンは満州語でムクデン

- ・瀋陽故宮博物院（シェンヤン クーゴン ボウユエン）に行った。清の太祖ヌルハチや2代目が暮らした宮殿である。オンドルがあって暖をとるようにしてある。
- ・1634年にここに都を設置した時に盛京（シェンチン）とよび、それを満州語でムクデンという。満州人が漢人（ハンレン）を支配していたわけだから、すごい話である。
- ・中国の名所旧跡はいずれもそうであるが古い。保存状態が歴史的によくなかったのであろう。

4. 張学良を高く評価

- ・奉天は、1905年の日露戦争で当時史上最大の野戦が行われた奉天会戦の戦場として名を残している。
- ・1912年に辛亥革命で清朝が滅亡すると瀋陽と改称されたが、その後も1928年に奉天省として張作霖やその長男の張学良を代表とする拠点となった。
- ・その張氏師府博物館に行った。張作霖（チャン ツオ リン）は当時将軍として東北3県をおさえ、第6夫人までいた。その長男が張学良（チャン シュエ リアン）で二人ともここで暮した。
- ・辛亥革命で中華民国が成立すると、そのころから日本の侵略が激しくなる。1928年に瀋陽郊外で関東軍による張作霖爆殺事件が起き、その後、張学良の反日の戦いが本格化する。
- ・瀋陽での柳条湖事件は今でも毎年記念式典が行われる。これが満州事件の引き金に

本レポートは、独自の視点から書いており、基本的に会社側の立場に立つものではない。本レポートは、投資家の当該企業に対する理解促進をサポートすることを目的としており、投資の推奨、勧誘、助言を与えるものではない。内容については、担当アナリストが全責任を持つが、投資家の投資判断については一切関知しない。本レポートは上記作成者の見解を述べたもので、許可無く使用してはならない。

なり、32年に満州国が建設され、日中戦争は本格化していった。

- ・張学良は周恩来と抗日で合意するが、その後台湾に軟禁され、米国に移ったりした。中国本土とは一線を画しながら、2001年100才の寿命を全うした。
- ・中国では、外国からの侵略から国を守り、独立のために戦った英雄ということで見直され、この博物館では張学良を高く評価し称えている。

5. 長春までは動車で2時間

- ・前日に瀋陽北駅まで切符を買いに行った。英語が通じないので、カタコト中国語で何とかするしかない。動車とは日本の新幹線のことである。行きは2等で93元（1300円）、帰りは1等で111元（1500円）であった。2等と1等の価格差が極めて小さいのには驚いた。
- ・途中、鉄嶺（ディエリン）、四平（スーピン）に停まって、長春（チャン チュン）に着く。300km、平均150km/時で走って、丁度2時間かかった。
- ・途中の車窓は北海道の感じ。なだらかな平原で田畑が広がっている。途中に火力発電所があり、その周りの丘陵には風力発電の風車が数多くあった。
- ・工場はあまり見えない。上海から南京に行く時の風景とはかなり違う。発展が明らかに遅れている。
- ・イメージでいえば、上海より南京が5年遅れているとすれば、瀋陽は10年遅れ、長春は15年遅れという感じである。若者の服装は皆身ぎれいで、車の数は同じとしても民度の違いを感じる。
- ・動車の和階号は日本の新幹線と全く同じ車体で快適である。瀋陽からは動車で長春まで2時間、ハルピンまで4時間。逆方向の北京までも丁度4時間である。東北3省も北京まで圧倒的速さでつながるようになっており、これが発展を加速している。

6. 中国の地域間格差を見る指標

- ・日本でも地域の格差を見る指標として分かってはいたが、さまざまな統計があるのであまり気にしていなかった。
- ・中国でも統計をきちんとみればよいのだろうが、1つのヒントはタクシーの初乗り運賃にあると気がついた。これはガイドブックにも町ごとに載っているのですぐ分かる。
- ・長春でタクシーに乗ったら、その運転手がどこから来たかと聞く。瀋陽からだという、長春のタクシー代は安いだろう、と言う。確かにそうである。
- ・瀋陽は初乗り（3km）で8元であるが、長春は5元であった。タクシーは結構庶民も

本レポートは、独自の視点から書いており、基本的に会社側の立場に立つものではない。本レポートは、投資家の当該企業に対する理解促進をサポートすることを目的としており、投資の推奨、勧誘、助言を与えるものではない。内容については、担当アナリストが全責任を持つが、投資家の投資判断については一切関知しない。本レポートは上記作成者の見解を述べたもので、許可無く使用してはならない。

使っており、バス以外の有力交通手段で、価格はコントロールされている。そういう目で見ると、おもしろい。

- ・因みに、上海は 12 元、北京は 10 元、南京が 9 元で、大連は 8 元、ハルピンも 8 元である。
- ・タクシー代でみた物価差は、上海を 100 とすると、北京 83、南京 75、瀋陽 67、長春 42、というのも、あながちはずれていないと感じた。いずれも自分で行って、歩いて、買って感じた実感に近い。

7. 偽満を徹底的にあばく

- ・長春では偽満皇宮博物院に行った。そもそも偽満という名付けが総てを象徴している。すべてが偽りで、それを展示して、歴史の生々しさから愛国心を鼓舞しているのである。
- ・ここは、清王朝最後の皇帝溥儀（ふぎ）が仮御所として使っていたところである。本当の宮殿は完成しなかったため、ずっとここで暮した。
- ・南京大虐殺の博物館と同じで、日本が満州を征服して傀儡（かいらい）政権を作り、東北の独立を画策し、それがいかに中国人民を苦しめたか。人民が独立に向けていかに戦ったか、を称える記念館となっている。
- ・江沢民の「勿忘“九・一八”」という言葉が掲げてあり、1931年9月18日の瀋陽北部の柳条湖付近で始まった日本関東軍の侵略を忘れるな、という意味である。
- ・日本は満州国を作り、34年に溥儀を皇帝にして、当時3000万人の東北地方を14年にわたって植民地とした。
- ・抗日民族統一戦線として、いかに帝国日本と戦ったかを中国側からこれでもかと描き、展示している。その徹底さはすごいものである。

8. 餃子食べ比べ

- ・22日の昼は、老辺餃子本店に行って、餃子を食べた。瀋陽のこの中華街はホテルのある駅近くの繁華街に一步遅れて大発展中。建設ラッシュである。
- ・餃子は焼き餃子が一皿20元、水餃子が一皿18元、お茶が5元で、はしのセットが1元、計44元であった。全部で600円だから、これは安い。出てきた皿を見てびっくり、計40個入っている。食べられるはずがない。
- ・餃子の有名店だが、日本のものとは違い皮が厚い。これが満州餃子の特長であるという。味は美味しいが10個食べたら、もうお腹がいっぱいであった。
- ・一方、23日の夜はホテルの外に出て、裏通りにある餃子屋に入ってみた。人が入っ

本レポートは、独自の視点から書いており、基本的に会社側の立場に立つものではない。本レポートは、投資家の当該企業に対する理解促進をサポートすることを目的としており、投資の推奨、勧誘、助言を与えるものではない。内容については、担当アナリストが全責任を持つが、投資家の投資判断については一切関知しない。本レポートは上記作成者の見解を述べたもので、許可無く使用してはならない。

ているので地元の人々には人気があるのだろうと思った。英語も全く通じない。私のカタコトの中国語も全く通用しない。身振り手振りで餃子を一皿頼んだ。

- ・一皿に 15 個入っていて 7 元 (100 円)。前の店よりさらに安い。こちらのほうが皮も薄くて圧倒的にうまい。はしのセットが 1 元、水のボトルが 3 元で、計 11 元 (150 円) である。

- ・中国人 4 人でテーブルを囲み、ビール (5 元) を飲みながらいろいろつまんで、一人 20 元といったところか。これがちょっと小綺麗な美味しい地元の店で、サラリーマンが一杯やる雰囲気であろう。

- ・日本の物価と比べると、餃子の 100 円 (日本でのイメージは 700 円) は $1/7$ 、ボトルの水 40 円は $1/3$ 、タクシー 100 円は $1/7$ 、新幹線 1400 円は $1/10$ 、一流ホテルの中華ランチ 1800 円は $1/3$ 、という感じであった。朝の新聞は 1 元 (13~14 円) だから、日本の $1/10$ である。

9. 東北地域の発展

- ・大連 (ダリエン) はコンピューターのソフト産業が大発展をとげている。瀋陽にはソフト開発大手の東軟乗団があるが、町としての産業発展はやや遅れている。長春は第一汽車があり、合弁相手のトヨタとプリウスの組み立ても行っている。近くの鞍鋼集団は製鉄大手で、自動車鋼板のウエイトも高めている。

- ・中国の都市から地方への発展はインフラの整備にある。鉄道や道路が整備され、電力、通信インフラができると、そのこと自身が投資需要をよぶとともに、消費需要も惹起する。

- ・地元の新聞を見れば、家と車の広告であふれており、住宅建設はいたるところで活発である。車はすでに町にあふれ、朝夕はかなりひどい渋滞である。地下鉄はまだできていないので、移動手段はバスかタクシーである。自転車は本当に少なくなっている。

- ・中国のマンションの広告は、子供が一人なのでパターンがはっきりしている。寝室 2 つ、リビング、書斎、キッチンである。風呂とシャワー、洗面、トイレは仕切りのない 1 つの屋である。これは中国文化の現れでもある。

10. 外国のテイスト

- ・豊かになれば一杯 20 元のスタバにも入るし、吉野家の牛丼も食べる。アメリカンテイスト、ジャパントイストを楽しんでいるのだろう。瀋陽は韓国人が多いが、冷麺屋は 5 元からで焼き肉は 10 元以上する。

本レポートは、独自の視点から書いており、基本的に会社側の立場に立つものではない。本レポートは、投資家の当該企業に対する理解促進をサポートすることを目的としており、投資の推奨、勧誘、助言を与えるものではない。内容については、担当アナリストが全責任を持つが、投資家の投資判断については一切関知しない。本レポートは上記作成者の見解を述べたもので、許可無く使用してはならない。

- ・KFCは朝から人が入っている。入ってみると8~15元のスープ、ハンバーグ類を売っている。朝から10~15円で、これから働きに行く若者たち（女性が多い）が、これを朝食として食べている。10元として140円、日本でいえば、3~4倍が妥当なので、物価は1/3~1/4という感じである。
- ・中国の経済は重工業エネルギー多消費依存で、サービスセクターのウエイトはまだ41%にすぎない。2011年~2015年の第12次5カ年計画でも、消費サービスセクターをどう育てるかが課題となっている。

1.1. 中国の糖尿病

- ・ホテルで新聞を読んでいたら、おもしろい記事があった。中国の糖尿病が倍増しているという。糖尿病の患者の比率が02年には4.5%であったものが09年には9.7%になった。9400万人が糖尿病で、その前兆の対象者が1.5億人いるという。20才以上の人口に対して10%近いとは驚きである。脂肪の取りすぎと肥満が原因という。中国人にとっても豊かさ病が早くもでてきている。確かに少しお腹の出た中年が町には多いようにみえた。